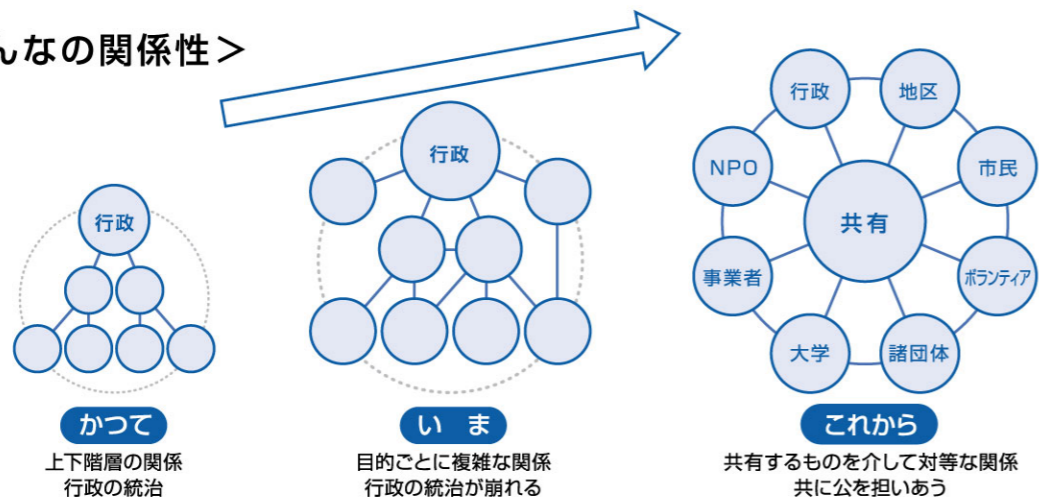


“かたの”のしくみ「みん活」

みんなの“かたの”の夢は実に多様です。それだけ一人ひとりの思いが異なる中で、みんなの活力によって夢に向かって進んでいくために、行動指針に従い、認め、つながり、担い合うための、基本的なしくみを共有することになります。

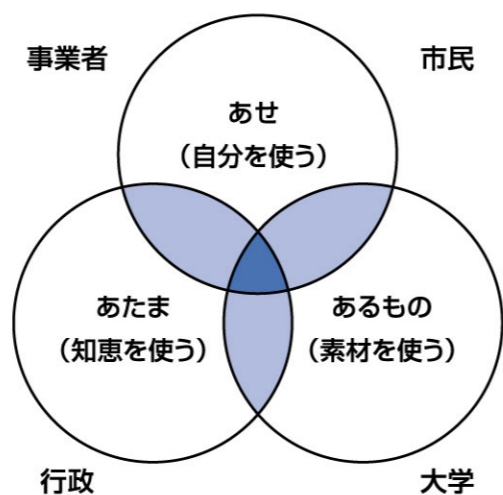
そのしくみの前提となるみんなの関係性については、これまでのような上下の堅い関係である階層や、ピラミッド型、ツリー型ではなく、ネットワークにみられるような対等で、さりげないつながり、夢や目的、課題の共有から生まれる円卓型での関係性を基本とします。

<みんなの関係性>



このしくみを基本にして、みんなの“かたの”を実現していくあらゆる場面において、相互に開かれた関係性を生み出していき、公(おおやけ)をみんなで担い合っていきます。みんなで担い合うとき、さりげないつながりを大切にするため、違いを認め合い、それぞれができることを少しずつ担い合うことにします。

<“みん活”で主に使うもの>



このようにして、みんな少しずつ活動し、みんなが活躍し、みんな活用していくことを大事にし、みんなの活力がつながって、大きな力となっていく、これが“かたの”のしくみ「みん活」です。

みん活で主に使うのは、「あせ」と「あたま」と「あるもの」です。まずは自分を使って汗をかき、頭を使って知恵を出し、そして、ないものねだりではなく、あるものを見つけ、大事に使っていくことにします。



みとめる

例えば

